

# AIMS-Gifuの教育改善に関する調査分析(1)

## ー利用初期の教員・学生の活用状況ー

興戸律子\*1・加藤直樹\*1・村瀬康一郎\*1

高等教育における教育機能の向上のためには、情報通信技術を活用した教育支援の推進が課題との認識がされつつある。そのため岐阜大学では、教育支援システムとしてAIMS-Gifu(Academic Instructional Media Service - Gifu)を2003年から試験的に導入し、大学院教育学研究科の遠隔授業及び対面授業の補完的な役割を担ってきた。2004年からは全学的な利用を開始し、2006年、2007年学期末に教員、学生双方から利用状況及び今後の要望についてアンケートを実施した。本報告では、アンケート結果の分析から、その成果と問題点を明らかにし、教員・学生が利用しやすいシステム作りへの課題を検討する。

〈キーワード〉 e-Learning, 教育方法, 教育システム, 高等教育, 調査

### 1. はじめに

情報通信技術を活用した教育支援について、大学教育審議会(2000)は「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」を答申し、インターネット等の情報通信技術の急速な発展等を背景にした高等教育の変革について指摘している。これにより高等教育における「教育機能の向上」は、各大学における重要課題としての認識が深まりつつあり、本学でも教育方法の改善への取り組みが課題となっている。

これらの課題に対して、本学では、この情報通信技術を活用した教育支援システムとしてAIMS-Gifu(Academic Instructional Media Service - Gifu)を2003年3月に試験的に導入し、2004年4月より全学的な本格利用を開始した。AIMS-Gifuでは、Blackboard社製Blackboard Learning System MLを中核システムとして採用し、Web技術を活用した学生・教員の基本的な教育に関わるコミュニケーションの支援を可能としている。

2年間のAIMSの利用を経て2006年4月からは「全学統合型教育改善システム推進事業」として推進体制を整備し、3ヵ年計画での取組を開始した。また2006年9月には学術計算機システムの更新に伴う利用環境の変更で「ポータル機能」を充実させ、学生生活、学習等への入り口

になる各種情報へのアクセスを容易にするものにバージョンアップした。

本稿では、AIMS-Gifu導入初期の2年間(2005年度、2006年度)の活用状況を学生、教員側からのアンケート調査を実施・分析し、導入初期の利用状況・課題を明らかにする。

### 2. 調査方法

#### (1) アンケート調査対象

本学の全教員(1700名)及び全学生(7600名)を対象にアンケート調査を行った。回答数は以下のとおりである。

回答数	2006年	2007年
学 生	305名	376名
教 員	230名	127名

#### (2) 実施方法

2006年は教員のみ質問紙を配布し、記入後に回収する方法により実施した。それに対し、学生にはAIMS上にアンケートに回答するよう依頼のアナウンスを掲示し、各々がアンケートにアクセスして回答する方法で実施した。また2007年は、教員、学生ともAIMS上でアンケートに回答する方法で調査を実施した。

\*1 岐阜大学総合情報メディアセンター

本報告は、2007年度日本教育情報学会年会での報告に、加筆・修正したものである。

**(3) 実施時期**

アンケートは、AIMSを導入して2年目の2006年2月に1回目を、翌年2007年2月の後学期終了時に2回目を実施した。

**(4) 岐阜大学におけるAIMS利用の経緯**

**〔2003年3月〕**

大学院教育学研究科のテレビ会議システムを用いた遠隔教育の補完としてプロトタイプを導入する。2003年度は試行期間であり、コース開設及びインストラクタ、受講者の登録は、希望により教員が個別に実施していた。

**〔2004年4月〕**

1年間の試験運用を経て全学で本格的稼働が始まる。教員、学生に対して利用講習会を実施し、マニュアルを作成・配布した。2004年度からはコース情報の開講科目、担当教員(インストラクタ)、科目履修学生の登録は、学内の教務情報システムより自動的に行うとともに、LDAPサーバよりユーザ情報を取得して自動登録を可能にした。

**〔2005年4月〕**

教務情報システムとの連携によるコース登録等の方法は昨年度と変更されていないため、同一条件下での利用が増えてきた。

**〔2006年2月〕**

全学の学生、教員を対象に1回目のアンケートを実施した。AIMSの活用・促進のため、各学部からワーキンググループを組織し定期的に研修会を開催し、新入生への利用指導等の利用促進を図ってきた。

**〔2006年9月〕**

学術計算機システムの更新に伴う利用環境の変更で「ポータル機能」を充実させ、学生生活、学習等への入り口になる各種情報へのアクセスを容易にするものにバージョンアップし、News Letterの配布を行い、利用促進を図ってきた。

**〔2007年2月〕**

全学の学生、教員を対象に2回目アンケートを実施した。

**〔2007年4月〕**

Web履修システムの稼働が開始し、学生のWebによる履修手続きにより、AIMSへの受講科目の登録が連動するよ

うになった。

**(5) アンケート用紙**

学生、教員それぞれに、AIMSの機能を使った授業方法に関する①～⑦の事項について現状（1：使っていない～4：使っている）と今後の希望（1：使いたくない～4：使いたい）の4段階で回答を求めた。

資料1に学生の調査表を示す。

- ①AIMSを使った講義資料・教材の配布について
- ②掲示板等を利用したレポートの提出について
- ③掲示板利用による質問や教員と学生又は学生相互のコミュニケーションについて
- ④講義での課題や準備物などの連絡が可能となるアナウンス機能について
- ⑤シラバス等講義内容に関する紹介について
- ⑥小テストなどの学習内容の理解度等を確認可能とするテスト機能について
- ⑦出席・課題・レポート等の成績素点を逐次本人が確認可能な成績判定資料の本人開示について
- ⑧今後のAIMSの活用に期待することについて自由記述を依頼

**3. 結果および考察**

**(1) 本年度の授業での利用について**

本年度の授業での利用実態について教員と学生それぞれ平均値の有意差検定(t検定)を行った。有意水準は危

**表1 本年の講義での利用**

教 員	2006		2007		t 値
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
講義資料・教材の配布	1.61	1.11	2.08	1.25	-3.43 **
レポートの提出	1.33	0.85	1.53	1.00	-1.86 *
コミュニケーション(掲示板)の利用	1.33	0.82	1.56	0.98	-2.15 *
アナウンスの利用	1.55	1.06	2.18	1.27	-4.65 **
講義内容(シラバス)の紹介	1.41	0.95	1.62	1.05	-14.76 **
テストの利用	1.15	0.64	1.35	0.84	-2.23 *
成績判定資料の本人開示	1.14	0.55	1.58	1.12	-4.17 **

学 生	2006		2007		t 値
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
講義資料・教材の配布	2.27	0.82	2.46	0.99	-2.72 **
レポートの提出	1.90	0.95	2.21	1.05	-4.02 **
コミュニケーション(掲示板)の利用	1.57	0.77	1.56	0.81	0.20 n.s.
アナウンスの利用	2.08	0.88	2.54	1.03	-6.35 **
講義内容(シラバス)の紹介	1.64	0.77	1.74	0.91	-1.58 n.s.
テストの利用	1.57	0.82	1.74	0.94	-2.61 **
成績判定資料の本人開示	1.53	0.72	2.06	1.05	-7.67 **

\* : p<0.05, \*\* : p<0.01

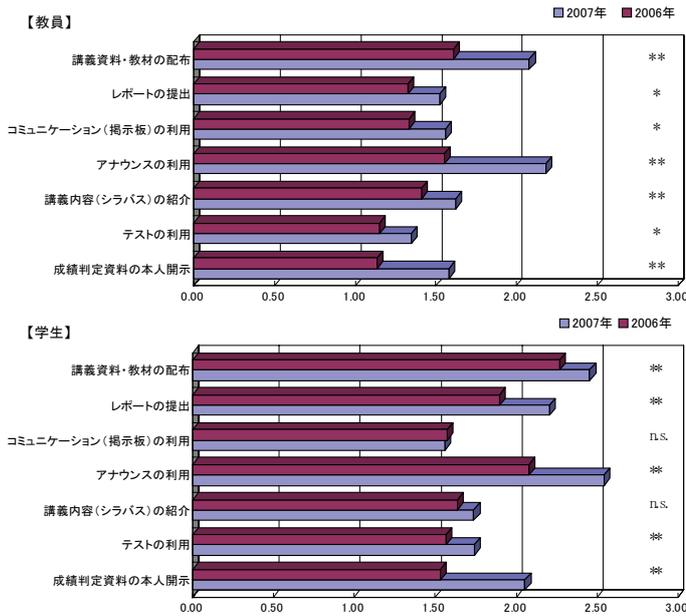


図1 本年の講義での利用

険率5%以下とした。表1は、2006年と2007年の2年間について実際に授業に使われた各機能について教員、学生それぞれの平均値を比較したものである。

表1より講義資料・教材の配布やアナウンス、成績判定資料の本人開示の利用が多くなっている(1%有意)。これは講義資料をAIMSに掲示しておき、学生は授業前にそれをダウンロードして入手することができるため、教員の積極的な利用により学生の利用も進むと考えられる。また、授業に関する連絡は事前に自宅からでも確認できるため、アナウンス機能は学生にとって便利な機能である。教員にとっても事前にこの機能の利用を学生に伝えておけば一度に連絡をすることができ、学生のAIMS利用が進めば確実な連絡方法としてより一層利用が進むと考えられる。

また「講義内容(シラバス)の紹介」は、AIMSを利用している教員の一部は、内容を記載しているが、後述する学生の自由記述にあるように多くの教員が記載していないのが現状である。

「成績判定資料の本人開示」については、大学としても個人情報保護の観点からAIMSでの管理を推奨しているため、教員が成績をAIMS上で開示指定すれば学生が自分の成績を把握することが可能になり、2006年より2007年は開示をしている教員が多く

なつたと考えられる。

それに対し、掲示板(コミュニケーション)の利用は、教員は有意の差が認められた(5%有意)が、学生は有意の差が認められなかった。このことは、教員はやや利用し始めているが、積極的な掲示板の利用までには至らなかったため、学生は利用することができず、利用が進んでいないことが考えられる。

## (2) 今後の授業での利用について

次に、今後使いたいAIMSの機能について(1)と同様に各機能について調査を行った。表2は、2006年と2007年の2年間について今後の授業で使用を希望する機能について教員、学生それぞれの平均値を比較したものである。

表2 今後の講義での利用

教員	2006		2007		t 値	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
講義資料・教材の配布	2.80	1.12	2.96	1.03	-1.30	n.s.
レポートの提出	2.54	1.16	2.61	1.11	-0.55	n.s.
コミュニケーション(掲示板)の利用	2.65	1.12	2.64	1.05	0.11	n.s.
アナウンスの利用	2.88	1.11	3.08	1.02	-1.67	*
講義内容(シラバス)の紹介	2.60	1.23	2.72	1.01	-0.98	n.s.
テストの利用	2.15	1.21	2.28	1.04	-0.98	n.s.
成績判定資料の本人開示	2.38	1.21	2.47	1.18	-0.65	n.s.

学生	2006		2007		t 値	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
講義資料・教材の配布	2.99	0.86	3.16	0.89	-2.56	**
レポートの提出	2.64	0.97	2.86	0.96	-2.87	**
コミュニケーション(掲示板)の利用	2.59	0.90	2.55	0.96	0.63	n.s.
アナウンスの利用	2.73	1.03	3.14	0.94	-5.38	**
講義内容(シラバス)の紹介	2.86	0.91	2.99	0.94	-1.95	*
テストの利用	2.39	1.01	2.55	1.05	-2.04	*
成績判定資料の本人開示	3.08	0.72	3.32	0.90	-3.53	**

\*:  $p < 0.05$ , \*\*:  $p < 0.01$

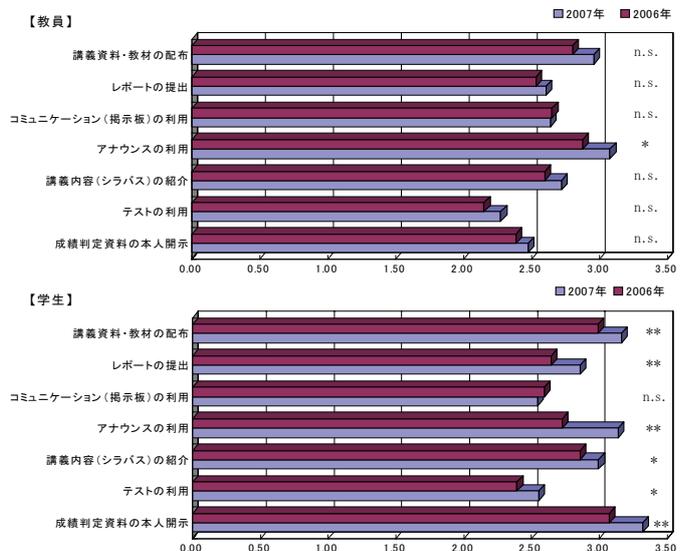


図2 今後の講義での利用

表3 本年度と今後の希望(2006年調査)

2006年 教員	本年度		今後		t 値
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
講義資料・教材の配布	1.61	1.11	2.83	1.15	-15.05 **
レポートの提出	1.33	0.85	2.56	1.20	-14.83 **
コミュニケーション(掲示板)の利用	1.33	0.82	2.68	1.16	-16.24 **
アナウンスの利用	1.55	1.06	2.90	1.14	-16.03 **
講義内容(シラバス)の紹介	1.41	0.95	2.60	1.23	-13.10 **
テストの利用	1.15	0.64	2.15	1.21	-11.44 **
成績判定資料の本人開示	1.14	0.55	2.38	1.21	-14.11 **

2006年 学生	本年度		今後		t 値
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
講義資料・教材の配布	2.18	0.81	2.64	0.97	-11.77 **
レポートの提出	1.81	0.88	2.59	0.90	-11.35 **
コミュニケーション(掲示板)の利用	1.48	0.68	2.73	1.03	-17.47 **
アナウンスの利用	1.96	0.80	2.86	0.91	-10.36 **
講義内容(シラバス)の紹介	1.64	0.77	2.39	1.01	-19.78 **
テストの利用	1.57	0.82	3.08	0.72	-12.27 **
成績判定資料の本人開示	1.50	0.72	3.08	0.72	-23.68 **

\*: p<0.05, \*\*: p<0.01

表2より、教員は「アナウンスの利用」以外の項目は、2006年、2007年に差は認められなかったが、学生の回答では、「成績判定資料の本人開示」、「レポートの提出」、「アナウンス利用」、「成績判定資料の本人開示」の項目には差が認められた(1%有意)。特にアナウンス機能は、自宅から授業等に関する情報を得られることから学生の利用希望が多いと考えられるが、現状ではあまり使われていないため、その利点が十分に理解されていないことが考えられる。今後教員がアナウンス機能を積極的に利用すれば、学生が日常的に確認する習慣が出来るのではないかと考えられる。

「講義資料・教材の配布」、「レポートの提出」、「成績の開示」についても学生の希望が多くなってきており、今後学生の希望に応じて、教員の利用が進むことが期待される。教員の自由記述にも「使っていない教員が多い。」それに対し、学生の方は「使っていない教員の多さに不満を感じている。」等の意見がある。

また、教員では差が認められなかったが、学生ではAIMSによるレポート提出の希望が多くなってきている。レポートの提出・評価はそのまま成績に反映させることが可能となっており、教員の積極的な使用が望まれている。

一方、学生、教員とも「コミュニケーション(掲示板)の活用」に対する期待は差がみられないことから、今後も授業の中で掲示板の活用を積極的に進めていくということはいえない。これはこれまでの伝統的な授業の方法に依存するものと推察され、時間外のコミュニケーションや質問などを取り入れた授業が少ないと考えられる。後述する自由記述によると、学生との対面授業、直接の会話が大切であるとの意見が多くあり、掲示板は必要がない等の意見があった。

### (3) 本年度と今後の活用について (2006年)

次に本年の講義での活用状況と今後の活用希望についてその平均値を比較した。表3は、2006年の調査で、各機能について、教員、学生のそれぞれの平均値を比較したものである。

表3より、教員、学生とも全ての項目について活用希

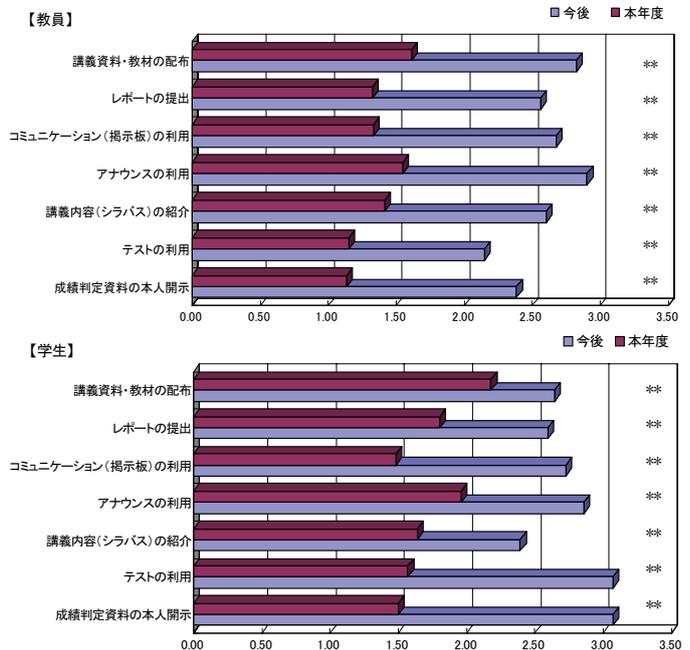


図3 本年度と今後の希望(2006年調査)

望が高くなっていることが示された(1%有意)。特に教員では、「アナウンスの利用」、「講義資料の配布」、「コミュニケーション(掲示板)の活用」、「講義内容(シラバス)の紹介」、「レポートの提出」の順に今後の希望が高い値を示しているが、本年度の講義状態との差では、「アナウンスの利用」、「コミュニケーション(掲示板)の活用」に続き、「成績判定資料の開示」が高くなっており、学生とのコミュニケーションが可能な機能の今後の活用が期待できると考える。

また、学生では、「成績判定資料の本人開示」、「テストの利用」、「アナウンスの利用」、「講義資料の配布」、「講

義内容（シラバス）の紹介」の順に今後の希望が高い値を示しているが、本年度の講義状態との差では、「成績判定資料の本人開示」、「テストの利用」、「アナウンスの利用」、「講義資料の配布」、「講義内容（シラバス）の紹介」の順に今後の希望が高い値を示しているが、本年度の講義状態との差では、「成績判定資料の開示」、「テストの利用」、「コミュニケーション（掲示板）の活用」、「アナウンスの利用」が高くなっており、評価に関する機能の活用が期待できると考える。

#### (4) 本年度と今後の活用について（2007年）

(3)と同様に本年の講義での活用状況と今後の活用希望についてその平均値を比較した。表4は、2007年の調査で、各機能について、教員、学生のそれぞれの平均値を比較したものである。

表4より、教員、学生とも全ての項目について活用希望が高くなっていることが示された(1%有意)。

特に教員では、「アナウンスの利用」、「講義資料の配布」、「講義内容（シラバス）の紹介」、「コミュニケーション（掲示板）の活用」、「レポートの提出」の順に今後の希望が高い値を示しているが、本年度の講義状態との差では、「講義内容（シラバス）の紹介」、「コミュニケーション（掲示板）の活用」、「レポートの提出」、「アナウンスの利用」が高くなっており、昨年度の調査同様学生とのコミュニケーションが可能な機能の今後の活用が期待できると考える。

また、学生では、「成績判定資料の本人開示」、「テストの利用」、「アナウンスの利用」、「コミュニケーション（掲示板）の活用」の順に今後の希望が高い値を示しているが、本年度の講義状態との差では、「成績判定資料の本人開示」、「講義内容（シラバス）の紹介」、「コミュニケーション（掲示板）の活用」、「テストの利用」が高くなっており、昨年度の調査同様評価に関する機能の活用が期待できると考える。

#### 4. 自由記述

表4 本年度と今後の希望(2007年調査)

2007年 教員	本年度		今後		t 値
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
講義資料・教材の配布	2.08	1.25	2.96	1.03	-9.4545**
レポートの提出	1.53	1.00	2.61	1.11	-10.883**
コミュニケーション（掲示板）の利用	1.56	0.98	2.64	1.05	-11.823**
アナウンスの利用	2.18	1.27	3.08	1.02	-9.6081**
講義内容（シラバス）の紹介	1.56	0.98	2.72	1.01	-11.554**
テストの利用	2.18	1.27	2.28	1.04	-10.14**
成績判定資料の本人開示	1.58	1.12	2.47	1.18	-9.4302**

2007年 学生	本年度		今後		t 値
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
講義資料・教材の配布	2.46	0.99	3.16	0.89	-12.38**
レポートの提出	2.21	1.05	2.86	0.96	-10.14**
コミュニケーション（掲示板）の利用	1.56	0.81	2.55	0.96	-19.19**
アナウンスの利用	2.54	1.03	3.14	0.94	-11.37**
講義内容（シラバス）の紹介	1.74	0.91	2.99	0.94	-21.39**
テストの利用	1.74	0.94	2.55	1.05	-13.68**
成績判定資料の本人開示	2.06	1.05	3.32	0.90	-20.67**

\*: p<0.05, \*\*: p<0.01

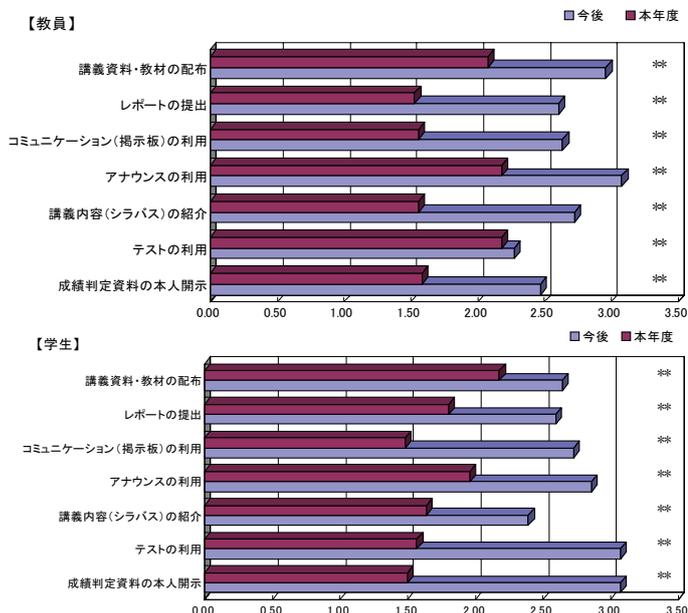


図4 本年度と今後の希望(2007年調査)

学生の自由記述の内容を次に示す。

#### <AIMSを使った利点>

授業の資料を載せてもらった講義は役に立った。  
先生とのコミュニケーションができるのが楽しい。  
掲示板の活用は、講義前のレポート提出やゼミ等の課題提出などにおいて、同じグループの仲間の考えや感想、進行状況などを知ることができて大変勉強になる。

#### <AIMSへの要望>

- 多くの学生がAIMSの利用を要望しているにも拘らず、教員側の使用が少ないので、ぜひ使ってほしい。
- 先生方からの発信がほとんどありません。受講授業が登録はされているが、内容が全くない。AIMSのシステ

ムはどんどん良くなっていくのに、先生方が積極的に利用してくれないと学生は利用しにくい。もう一度すべての教授にAIMSの使い方を教えた方がいいと思う。講義資料の配布を行うのであれば徹底してほしい。複数の講師が交代して進める講義では、資料を載せると第1回目で告知しておきながら、配布を行わない場合がありその上その資料にレポート課題の内容が記載されている場合もあって非常に困った。

- 教授や学生同士のつながりがもてる場をもっと手軽に使いやすくして、コミュニケーションを可能にしてほしい。
- 掲示板がほとんどの科目で使用されていないので、これからは是非使用してほしいです。
- 休講情報、連絡事項等を自宅でも知りたいので休講情報や授業内容の変更などをリアルタイムで反映するように教員、事務がアナウンス機能を活用してほしい。
- どの授業でも成績を開示して、逐次確認できるようにしてほしい。
- 使い方や表示方法の研修会を開催してほしい。
- AIMSトップページのデフォルト状態の改善をしてほしい。画面、システムともによりシンプルな構成にしてほしい。
- 履修登録の手続きの時に手書きの履修届を提出するよりもAIMSを利用して登録できるようにしてほしい。

次に教員の自由記述の内容を以下に示す。

#### <AIMSへの要望>

- AIMSで日々の出席・成績管理をして、学期末に学務へ成績の提出する際、二度手間にならないようAIMSから行えるようにしてほしい。
- 大人数講義での学生の出席確認が「容易」で「確実」にできるような手段があれば、ぜひぜひ利用したい。
- 自宅にパソコンを持っているか否かで学生の学習環境に不公平が生じるため、不公平にならないように学内に自由に使用できるパソコンの整備をしてほしい。
- 現在のAIMS-Gifuは、全ての講義について網羅しようとしているような多目的型であり、パッとみてすぐに使用できるようにはなっていない。講義によっては不必要と思われる機能も多々あり、非常に複雑で、ぜひ

使いたいという魅力に欠けているように思います。できれば、最初は多機能である必要がなく、マニュアル無しで使用できるような環境で運用していき、みんなが使用してなれていくうちに、徐々に機能を増やしていくといったことができたらと思います。

- さまざまな授業に対応したAIMSの研修会を開催してほしい。
- 便利なシステムであることは間違いないが、学生との対話、学生の顔色を見ながらの指導、教員が板書し、学生がそれを自分の手で書き写す行為も重要であることもある。システムの長所を引き出すことに重点をおくことが必要。
- もう少し自由度の高い成績の管理ができると使い易い。現在は、課題やレポートを加味して試験を評価するには、加重平均しかない。
- 今後、シラバスや履修登録がすべてオンライン化され、ネット経由でのさまざまな講義情報の取得や講義に対する自分の意見のアップロードなどが学生にとって今以上に当たり前のことになってくれば、教員側もプレッシャーを感じて、重い腰を上げざるを得なくなるであろうと覚悟はしています。
- 「テスト」や「レポート提出」にはぜひぜひ利用したが、何となく難しそうで敷居が高い。
- 使用する必要性が一番高いのが前期と後期の講義開始時であるが、このときには履修登録が終了していないので、各学生に連絡するためのメール機能が使えない。
- 担当授業数が多すぎると、AIMS-Gifuを使うのが億劫になってしまう。学生にとってはAIMS上でも情報があつた方がよいのだろうけど、対応しきれないのが現状の悩みである。
- AIMSの活用法の紹介 効果的に活用している事例などがわかるとよい。
- 紙のマニュアルだけで利用できる人は限られるため、電話をすれば指導してもらえるヘルプデスクがあるとよい。
- 全ての講義の資料をコース文書にアップし、学生はそれをダウンロードして講義に使用している。最近、授業公開講座など学外からの受講者も増えてきたので学外の受講者には資料を印刷して渡している。学外の受講者にもAIMSが利用できたら便利であると思って

いる。

- ・著作権のことが気になり、資料等が十分活用できずにいた（特に今年度）。普段の講義とAIMSで活用可能な資料をどのように組み合わせて活用可能なのか、ガイダンス等で活用方法などを聞き有益であったが、さらに教員各自の授業スタイルに合ったモデルとなる授業例などを知ることができれば有り難いです。
- ・「あれにも使える、これにも使える」というようにするよりは、まず基本的な用途での利用率をあげることを考えるべきだと思います。学生とのコミュニケーションやテストに使うのはこの次だと思います。まずは、成績の管理と提出用、定期試験や休講などのアナウンス用、授業評価アンケートの回収用などが基本的な用途としては適切だと思います。

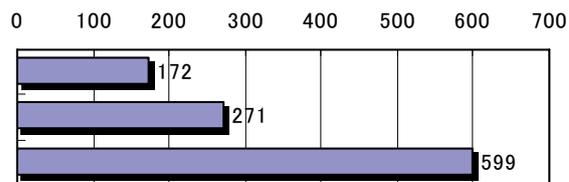


図5 AIMS-Gifuを利用する授業科目数

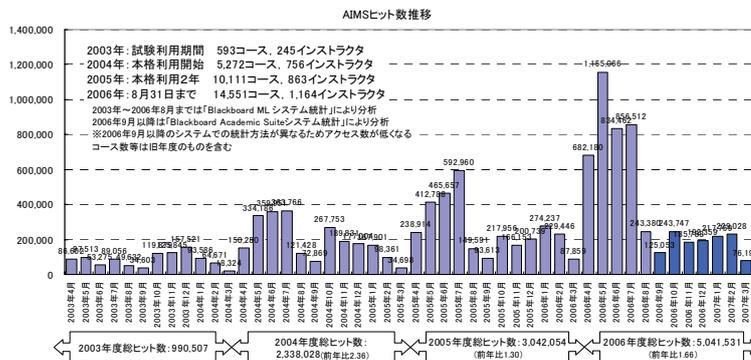


図6 AIMSのアクセス数

## 5. 利用状況

全学に教育支援システムAIMS-Gifuを導入して3年間が経過し、その活用状況を特徴的な機能の活用状況から検討を行った。

実際の使用状況を示すものとして、図5に示すようにAIMS-Gifuを利用する授業科目数では、2004（平成16）年度の172科目、2005（平成17）年度の271科目から2006（平成18）年には599科目と倍増している。さらに、AIMSのアクセス数は図6に示すように2005（平成17）年度の約300万件から約500万件に増加している。但し、2006年9月11日より学術計算機システムのバージョンアップによりアクセスの集計方法が異なるため低い値となっている。

## 6. 今後の課題

自由記述からは、多くの学生がAIMSの利用を要望しているにも拘らず、教員側の使用が少ないことが指摘されている。このため、学生の利用期待に応えるための教員研修の必要性が指摘される。またAIMSは狭義の

e-Learningとの誤解も教員の一部にあることから、授業実践の紹介を重視した研修会の実施が必要となろう。2007(平成19)年度からは、授業形態の違いに対応するために学部の実情に応じた研修会の実施を計画している。また、掲示板の活用については、今後の要望でも学生、教員共に使用に積極的ではなく、今後も掲示板の利用が進まないことが懸念される。しかし授業方法が見直され学生のコミュニケーションが重視されるようになれば掲示板の使い方も多様なものとなると考えられる。AIMSのみ活用に限らず授業改善のそのものの検討が必要となろう。

この他にも活用を促進するためには、学生が学内で自由にAIMSにアクセスするための環境の整備や要望に応じた機能改善にも継続的に取り組む必要がある。さらに、学務システムとの連携を進めることでポータルとしての位置づけを明確にすることも重要となる。2007(平成19)年度からは、Web履修システムを、また成績に関しては出席記録システムを開発し、その結果をAIMSに反映させる予定である。

### 参考文献

- ・加藤直樹(2004)：AIMS-Gifuを活用した授業方法の開発と評価(1)、岐阜大学カリキュラム開発研究 Vol.22,

No.1,8-15.

- ・加藤直樹, 益子典文, 伊藤宗親, 興戸律子, 村瀬康一郎(2006): AIMS-Gifuを活用した教育改善システムの開発(1), 岐阜大学カリキュラム開発研究 Vol.24,

No.1,1-8.

- ・王文涌, 加藤直樹(2006): 岐阜大学におけるeラーニングの利用推移と統合型授業設計モデルの検討, 岐阜大学カリキュラム開発研究 Vol.24, No.1,9-17.

資料1 学生用のアンケート用紙

**教育改善に関するアンケート調査表〔学生用〕**

岐阜大学教育委員会 委員長

◆ この調査は、本年度1年間の岐阜大学の中期目標・計画を評価し、改善に役立てる調査です。本調査の結果を目的以外に使用することはありません。ご協力お願いします。

◆ 各設問について、該当する選択肢の数字を○印などで囲んでください。また、回答欄がカッコの場合は、当てはまる数字などをご記入下さい。

1. あなた自身などについてお答えください。(該当するものに○印等で回答してください)

(1) 所属学部又は研究科等は

①教育学部 ②地域科学部 ③医学部 ④工学部(昼間) ⑤工学部(夜間)  
 ⑥農学部・応用生物科学部 ⑦教育学研究科 ⑧地域科学研究科 ⑨医学(系)研究科  
 ⑩工学研究科 ⑪農学研究科 ⑫連合農学研究科 ⑬連合獣医学研究科  
 ⑭特殊教育特別専攻科 ⑮農業別科 ⑯その他( )

(2) 本年度1年間の受講科目数は ( ) 科目

2. AIMS-Gifuの活用状況についてお答えください。

(1) AIMS-Gifuを知っていますか。 ①知っている ②知らない

(2) AIMS-Gifuは、現在、全ての授業科目で利用可能となっていることを知っていますか。  
 ①知っている ②知らない

(3) AIMS-Gifuを利用したことのある講義科目数 ( ) 科目

3. AIMSを積極的に活用した講義と今後の活用についてお答えください。

(1) 講義資料・教材の配布(講義資料や教材のファイルをいつでも利用可能)

今年度の講義で	使っている	④-③-②-①	使っていない
今後の講義で	使ってほしい	④-③-②-①	使ってほしくない

(2) レポートの提出(掲示板等を利用してポートを投稿可能)

今年度の講義で	使っている	④-③-②-①	使っていない
今後の講義で	使ってほしい	④-③-②-①	使ってほしくない

(3) 掲示板による質問や教員と学生又は学生相互のコミュニケーション

今年度の講義で	使っている	④-③-②-①	使っていない
今後の講義で	使ってほしい	④-③-②-①	使ってほしくない

(4) アナウンス(講義での課題や準備物などを連絡可能)

今年度の講義で	使っている	④-③-②-①	使っていない
今後の講義で	使ってほしい	④-③-②-①	使ってほしくない

(5) 講義内容に関する紹介(シラバス等をより詳細に参照可能)

今年度の講義で	使っている	④-③-②-①	使っていない
今後の講義で	使ってほしい	④-③-②-①	使ってほしくない

(6) テスト(小テストによる学習内容の理解度等を確認可能)

今年度の講義で	使っている	④-③-②-①	使っていない
今後の講義で	使ってほしい	④-③-②-①	使ってほしくない

(7) 成績判定資料の本人開示(出席・課題・レポート等の成績素点を逐次本人が確認可能)

今年度の講義で	使っている	④-③-②-①	使っていない
今後の講義で	使ってほしい	④-③-②-①	使ってほしくない

4. 今後のAIMSの活用に関して、どんなことを期待しますか(講義以外での利用期待も含)。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

◆ご協力ありがとうございました。